

広報かわにし

一人口の動き一
2月1日現在
男 6.079人
女 6.466人
計 12.545人
世帯数 2.618世帯

発行所 川西町役場 発行者 川西町 <町長 中村壮吉>
編集人 星名四郎 印刷所 白南風社 定価 1部5円



1月29日 上野小展覧会<父兄作品展室>から

◆二月の行事

- 三日 節分
- 四日 立春
- 五日 町内校長会
- 七日 町議会
- 八日 針供養
- 十日 土地改良区監査会
- 十日 橋婦人会役員研修会
- 十日 上野・千手評議員会議
- 十一日 橋小給食設備検査予定
- 十一日 千手小スキー大会
- 十四日 新大研究生へき地教育研究会
- 十六日 開田地等級打ち合わせ会
- 二十日 家庭の日
- 二十五日 上野小スキー大会
- 二十五日 橋小スキー大会
- 二十六日 土地改良役員会

三沢大火に義援金

青森県三沢市の被災者にと、千手小学校児童会(会長桑原和子)では全校に呼びかけて義援金を集め、さる一月二十八日、日赤川西町分区分に五千六百七十三円を寄託した。

また高橋代利子さん(山野田)からも寄託を受けた町の分区分ではこれらを、日赤支部を通じ、日赤三沢市分区分へ送金しました。

米寿のお祝い

町の社会福祉協議会(会長中村壮吉)は、一月一日で呼び年八十八才になったかたに、米寿をお祝いして座布団一枚ずつを贈りました。本年の米寿該当者は明治十二年に生まれたかたがたです。

広報スポット

紛争解決の必要があったらこの方法を利用ください
入学前の準備
このころは大半の子どもが、保育所などで集団生活を体験するのせいか、新入学といっても以前ほど心配はないようです。

(氏名) (世帯主) (町内)
高橋キイ 軍治 四郎兼
広田ノイ 重作 沖立
内山常司 常治郎 新町新田
清水恒太 本人 下平新田
江口仲蔵 本人 小白倉

調停事件の口頭受付
【簡易裁判所】
紛争事件の解決のためには、正

①あいさつができること ②自分の名前が言える、書ける、読めること ③ハイ、イエエの意志表示ができること ④ハンカチ、ちり紙の使い方と管理ができること ⑤洋服の脱着ができ、用使がたせれば十分。字を教えこんだりすると、むしろ授業にさしつかえる

町議会報告

母子センター使用条例を制定

請願附帯事項で一波乱

新年の初議会は一月十一日に第一回臨時会として招集され、前日竣工した母子健康センターの使用条例ほか一件を議決した。

この臨時会は、新年の初顔合わせを兼ねて新年の財政の見直しについて検討するため、毎年一月はじめに招集されるのが例となっている。したがって、町長、議長、議長の年頭のあいさつで始まる本会議の附帯事項は必ずしも多くない場合が多い。

今回も前記母子健康センター使用条例のほか、公平委員会事務共同処理についての一部事務組合加入の件、及び上野・橋有線放送事業助成請願の三件だけであった。

このうち、有線放送事業助成請願については、附帯事項として添付された文書の内容が農協合併に関する問題であって、請願とは直接関係がないばかりでなく、紹介議員も関知しないものであるとして異議が唱えられ、一波乱のち結局これを上程しないこととなったので、議決されたのは請願を除いた二件だけであった。しかも、この二件のうち、「公平委員会事務共同処理」の件については、また一部事務組合の規約案の送付を受けていないので、現状としては、この組合ができた場合は加入するという一種の確認をしたに過ぎないこととなり、したがって、実質的に団体意志の決定をしたのは、母子健康センター使用条例の制定一件だけということになる。

なお、翌十二日は午前十時から全議員協議会を開いて①昭和四十一年度一般会計予算について②議員報酬改定について、の二件と、本会議上程を取り下げた前記一上野

新年度一般財源は七百六十万円の減

一月十二日の全議員協議会において、昭和四十一年度一般会計の財源についての見通しが当局から発表され、これに基づいて検討が行なわれた。それによると町税と地方交付税を合わせた一般財源の総額は一億二千三百七十七万円で、前年度に比較して七百六十六万円の減となっている。これは税制改正に伴う市町村民税の減収と国鉄関係の大規模償却資産税の償却による自然減、及び地方交付税の減等によるものである。特に地方交付税については五百七十三万という大幅減となる見通しであるが、これは町村合併の特例による恩典の漸減とともに、昨年実施した国勢調査の結果百九十六世帯千七百六十

一人という人口減が大きく原因している。

また国鉄償却資産税については現行の税率百分の一で計算して二百三十万の減であるが、国鉄当局が要望しているように、これを標準税率の一四に引き下げたり千手発電所の建物の評価を下げたりすると、さらに大幅な減収となる。これらに対して、町当局としては近く上京して国鉄給電管理事務所及び自治省に対して財源確保の陳情を行なう予定であるとの意向が明らかになった。なお、新年度一般会計予算の規模について中村町長から、以上の一般財源のほか事業に伴う国庫支出金その他の特殊財源を含めて総枠を一億八千万円程度に止めたい、という言明があった。

入所七日で九千六百元

センター使用料

川西町母子健康センター使用条例は、センターの使用について必要な事項を定めたもので、その内容は、入所手続、入所期間、給食使用料、使用料の減免その他について規定されている。この条例の中心となるものは使用料であるがその範囲、意義、及び使用料の額については第七條、八條に規定されており、そのあらましは次のとおりである。

一、分焼料	一件	四〇〇〇円
二、沐浴料	一回	二〇〇円
三、入所料	一日	二五〇円
四、給食料	一日	三五〇円

- 五、管外加算料 一日 一〇〇円
 - 六、特別入所料
 - 出産前 一日 五〇〇円
 - 出産後 一日 六〇〇円
- (注) 1 生まれた子が二た子であった場合は、分娩料に二千元を加算する。
- 2 母乳不足の場合の乳料については、その実費を徴収する。
- 3 管外加算料というのは、川西町の住民以外の入所者から徴収する料金である。
- 4 特別料金というのは、分娩の日から七日間」と規定されている。

県政刷新決議を否決

二月七日に臨時会

二月七日に第二回臨時会が招集され、会期一日で四十年各会計修正予算のほか、町道の認定・廃止・請願・陳情及び県政刷新に関する決議等合計十二件を議決した。修正予算は、四十年各会計の過不足を最終的に整理したもので、事業費の増減、給与費の異動等による修正がおもな内容であるが、結果的には減額になった面も多く一般・特別の四つの会計を通じて差し引き二百八十八万円の減額補正となった。

すなわち一般会計は、総額において二百九十四万五千円の減であるが、これは室島林道の事業費の減に伴う工事請負費六百四十万円の大減減がおもな理由である。国保事業協定と施設(診療所)協定は増減なしの才出補正のみでありまた農業共済会計は給与の増その他で六万四千円の増である。以上

いる入所期間以外の入所に適用される料金である。

以上の規定に基づいて分娩から七日間入所した場合の料金を合計すると九千六百元となるが外に白米一日につき三合を持参することになっている。

このうち、分焼料と沐浴料は担当産婦の取扱手数料となり、給食費三百五十円は給食の経費にあてられ、残った入所料がセンター助産部の管理運営費となるわけである。

今月の家庭の日は【二十日】です。

に町道として認定し、大沢川西線及び室島(高倉)十日町線の県道認定に伴い、同線を重複する町道を廃止したものである。なお、大沢川西線は、去る一月木落まで延長されたので、町道仁田木落線も廃止された。

請願は「北越線千手停車場建設に関する請願」であるがこの請願は、委員会付託を省略して本会議において採択の上、協力を結成することを確認した。

以上のほか、最後に滋野一郎議員ほか一名から提案された「新濁川政刷新に関する決議」が上程され、無記名投票の結果、賛成八票、反対十五票で否決された。

小川政一氏

(川西町役場産業課長)



かねてより病氣療養のため東京都豊島区西果嶋の久保田病院入院中であつたが、危篤の報があつたままついに回復のきざしもなく、二日午後二時四分、同病院で死亡された。五十八才死因は白血病であつた。

遺体は埼玉戸田葬儀場で密葬ののち、四日午後一時近く、川西町役場に声なき帰庁をされた。役場では、ただちに四階会議場

で告別式をとりおこない、統経のうちに町長以下役場職員、町議、関係団体役員多数が焼香して最後のわかれをつけた。

△略歴▽明治四十一年一月四日生まれ、中仙田青年学校卒業、大正十一年仙田村役場に入り、昭和二年いったん退職、仙田村農会書記を経て二十一年ふたたび役場に勤務。町村合併後は仙田支所主事心得のち本庁に入り、三十六年災害復興係長、三十八年二月土木課長、同年九月産業課長となる。三十五年には自治功労者として表彰をうけた。家族に妻子ヨシ子二人がある。

ヤク年とヒノエウマ

数えてことし四十二才、世間でいうヤク年になつた。何となくいやあな感じがする。ある日、関口保健婦に「災難や事故のないようにおはらいをしてもいい、家中でさきやかに祝うつもり」といったら「社会教育主事ともあろうお方が、いまだき、そんなバカげたことを本気で考へてですか」と笑われてしまった。いやはや。

それにしても、女は三十三才で男は四十二才を境として、それ以後はしたいに機能を発揮できなくなるという定説がうらめしかったワラにもすがらうな気もちで高橋総務課長にお伺いをたてた。いわく「とんでもない、男も女衆もヤク年をすぎればなおさらよ」と

保育所のありかた

1 幼稚園とは異なる

保育所は児童福祉法により設置された施設であります。児童福祉法では、児童の基本的な権利を尊重するとともに「国及び、地方公共団体が児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する義務を負う」とも掲げられており、保育料を差し引いた基本額を国が八割、県と市町村が一割ずつ負担して運営することになっております。

保育所は、最近母親たちが乳幼児の社会的保育への期待とともに農村の労働力不足、物価高による生活水準の相対的な低下により、いっそう母親の労働の傾向をつよめ、これにとめない、保育に欠け

いうことだぜの、宴会でも、一次会より二次会のほうが実があつてはやるのと同じわけさ」という話、ハラの底からうれしくなつた。もともと、ヤク年だからとこだわる気もちははじめからなかった。人生も中だるみのころ、このへんで清新の気をそそぎ、ゆたんせすに生きてゆけばそれ

でよいことである。その意味で特別のヤクばらいななどはしな

いつもありだ。もし、このわたくしがことし交通事故で死んだり、思わぬ災難に会つてこの世から消えたとしても、それは、ヤクばらいをしなかつたことが原因でなくて全くの偶然であるといえよう。十干十二支によるとことしはヒノエウマ、丙という字には火の兄

バカな話も実際にあつたようだ。六十年前のヒノエウマ年に生まれ、現在、夫婦の仲は人もうらやむほど、人なみ以上にしあわせな家庭をもつておはあちやんを何人か知つてゐる。夫を食ひ殺すどころか、むしろやさしくて、たくましい生活力をもつており、子

宝や金運に恵まれてゐるのがヒノエウマ生まれの婦人だと思つた。町教育委員会が集計したデータによると、この春の小学校入学予定者は男子百二十五名、女子百三名であつた。三才までを年度別に調べてみたらどの年も男子がはるかに多かつた。昨年まではこの逆の現象が続いてゐたのに、ことしから女子が少なくなるというのはどうしたわけであらうか。

ヤク年にとだわるつもりはないが、それにかこつけて飲むのは悪くないテ、という友人がゐる。ヒノエウマだからこそ女の子を生みたいという人もかなりある。数が少なければ、入学や就職や結婚にそれだけラクをするだろうという親心だそう。ヤク年やヒノエウマのさばる時代はすぎた。

疾病、心身障害の場合の保育能力の如何を第一に考慮し、さらに家庭で児童をとりまく第二次保育担当者である父親、祖父母等の保育能力も認定することになってい

ただけはおわかりと思ひますが、保育所は児童のレクリエーションセンターである児童館や、幼児教育をする幼稚園とは目的が全然異なるものであります。しかし、保育所のもつ機能のうち、教育に関する部分は幼稚園教育要領に準ずることが望まれてゐます。保育内容は大別して保健指導と生活指導また保護者の理解と協力を保育上必要とするので家庭指導も行うことになっており、養護と教育とが一体となつて、常に乳幼児が安定感をもつて豊かにのびのびと活動できるように努めなければならぬことになってゐます。

たその家庭が貧困であるかどうかは問ひません。入所の基準というもののはつきり決められてゐるわけ、この基準では家庭における乳幼児の保育担当者は、たれよりも母親にあるという考え方から、母親が勤め人であるとか、出産、

入所については措置権者たる市町村長の義務となつており、地域の保育に欠ける児童が全部入所しても定員に余裕があれば私的契約児を入れてもよいことになってゐます。これはあくまで保育に欠ける児童を入所させた後に定員に余裕がある場合に限られます。

保育料は保護者等の所得、資産によつて決められますが、三才未満児の場合は最低一、〇五〇円から最高六、〇〇〇円、三才以上児

は最低七〇〇円から二、三九〇円と決められてゐます。なお、私的契約児の場合は何れも最高額の保育料を徴収することになります。以上、保育所制度について皆様たいと思ひます。

月卒業見込みの者及び、旧令による女学校卒業業者) 満十八才に達した後、保育園又はへき地保育所に三年以上上保母に勤務した者

常設保育園や、へき地保育所で働く保母は資格が必要ですが、県では次により昭和四十年年度第二回保母試験を行います。希望者は社会係に詳細をおたすねください。

受験者の宿泊所(ただし新潟市のみ)を一泊二食付八百五十円であつせん。

新潟県保母試験のお知らせ

- 一、受付期間 昭和四十一年二月一日より三月十日まで
- 二、受験資格 1、高等学校を卒業した者(三)

先手必勝

成人病には 早期診断 早期治療 (成人病予防)

他の成人病

庄屋の交替

むかしの村々には、村三役(庄屋・組頭・百姓代)があつて、それぞれ自治体としてのつとめを果していた。

庄屋はいまの村長と思えば間違ひはなく、村の最高責任者としてすべての取締りにあつて来た。

組頭はその補佐役でもあり、直接に連絡をとつたり事務を処理したりしていた。庄屋・組頭ともに若干の給与があたえられ、また村民からの労力提供なども定められていたようである。

百姓代は、村民たちの代表として、村自治についての民意を上に通ずるよう努めていた。或る時期には長百姓とも呼ばれていた。

庄屋役は、村内の徳望家でその任に適したものを領主が命ずることになつてはいたけれども、それらはいたい家の格のいいところに限られてしまひ親から子へ、子から孫へと、同じ家のものが連続して任せられる例が少なくなつた。

野口村庄屋を長くつとめた野沢氏や祖師村(上野)の清水氏などはこの適例である。

適任者がいなくなつたり、村の戸数がとくに少なくなつたりするときは、隣村庄屋が併せて取締りにあたることもあつた。このような場合は兼帯庄屋と呼んだ。

また、庄屋が老令になつたり病気がちの時は、とくに許されて見習庄屋がおかれることもあり、組頭が一時的に代行することもあつた。

村三役の制度は、明治に入り、戸長役場制度が置かれて消滅した。次の願書は、仙田村の庄屋役を四人で交替でつとめて来たところを、二人がとよりになり且つ病弱となつたので、その仲たちと代らせていただきたい旨を代官所へ申し出たものである。

乍悉以書付御願申上候

当御代官所の魚沼郡仙田村庄屋役の儀は、又次右衛門周助治左衛門宗右衛門の四人が同役で、御役所つとめについては吾人つと年番で勤めて参りました。ところが、又次右衛門周助の二人は、老衰多病のため退役の御願いを申しあげており、且つ両人

続・ふるさとをさぐる

資料で見る町の歴史

跡役の儀は又次右衛門仲の長左衛門と周助の養子弟治の二人に仰付け下されたくお願い致すつもりで、すでに村内では相談し取り極めておりました。

しかし、今般うけたまわりますれば、近いうちに御最寄替えがあり、当村は会津藩御預り所に仰付けられる趣とのことでございます。(※1)

最寄替え(もよりがえ)とは、支配者の代つたことを指し、ここでは幕府直轄の天領であつたものが、会津藩松平氏の一時期預り地に支配替えになつたことをいっています。(※1)

このような状態のところでも最寄替えが行われれば、いろいろと厄介なことにも成り兼ねませんので、両人の退役と跡役の件について御聞濟み下さいませ。長左衛門と治を御差加入下され、これ迄の振合に御申送り下されたく願ひあげ奉ります。

もつとも、組頭や百姓代については何の替りも致さず、従来どおりつとめていく考えでございます。何分とも右願ひの通り御申送り下さいますよう恐れながら書付をもつて願ひあげ奉ります。魚沼郡仙田村

百姓代 辰右衛門 治 助
慶応四辰年組 頭 善右衛門 藤右衛門 基 助
庄屋 治右衛門 宗右衛門 退役願 増田周助 同 断

又次右衛門 右両人跡役願 出雲崎 御役所 長左衛門 治

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 相崎 京子 貞雄二女 沖立
- 高橋 和義 作一長男 伊友
- 高橋 文雄 幸吉二男 学校町
- 富井 洋子 昭平二女 上野
- 押木 昌子 藤栄長女 元町
- 小海 一郎 益男長男 小根岸
- 野澤 文春 勇三男 野口
- 小幡 和子 満三男 野口
- 村越敬太郎 敬一長男 野口
- 根津 健雄 健治郎二男 原田
- 小幡いなみ 正良長女 仁田

ねずみくじの当選番号決まる

昨秋実施しました県下いっせいにねずみくじの抽せん券「ねずみくじ」の当選番号が去る一月二十五日新潟市で開催された「ねずみくじ」の席上で厳正抽せんの結果、次のとおり発表されました。

- 各組共通 シモ三ケタ 二一八・二五四・〇一九・六〇四・七五一
- 各組共通 七三四八一
- 二等(三五本) 会席オードブル 各組共通 七一七〇三
- 六五三五七
- 三八一一二
- 五六八六三
- 三四六八九
- 三等(〇〇本) サランサツシユ 各組共通 シモ三ケタ 五六五

昇天—御めい福を祈る

- 渡貫 徳松 新町新田 九四
- 高橋徳太郎 室島 八三
- 保坂 善平 大白倉 八一
- 喜多誠太郎 東善寺 七八
- 川崎 ハル 越ヶ澤 七八
- 小林 ナカ 中仙田 七五
- 北村 カク 山野田 七〇
- 平野源治郎 上町 六五

たかさご—御円満に

- 新郎 高橋 修一 伊友
- 新郎 羽鳥 京子 伊友
- 新郎 高橋 晃 坪山
- 新婦 佐藤 弘子 青森縣から
- 新婦 岩波 俊治 上野
- 新婦 高木 健次 上野
- 新婦 除村 住枝宇都宮市から
- 新婦 山田 和也 仁田
- 新婦 児玉ハル子 稲葉から
- 新婦 山口 賀子 仁田
- 新婦 桐生 泰孝 宮城縣から
- 新婦 米山 輝雄 室島
- 新婦 高橋ツネ子 大白倉から
- 新婦 中條 和彦 岩瀬
- 新婦 小松セイ子 秋田縣から
- 新婦 川崎 杜吉 越ヶ澤
- 新婦 武田 久子 秋田縣から
- 新婦 齋木 敬二 高倉
- 新婦 高橋レイ子 高倉から

昭和四十一年一月一日以後に支給期がくるものから通勤定期券の場合は千六百円(従来は九百円)に自転車通勤者の場合は四百五十円(従来四百円)に原動機付自転車(バイク)等通勤者に支給されるものは五百円(従来四百五十円)にそれぞれ引き上げられましたのでご注意ください。

なお、ご不明な点がありましたら十日町税務署直税課へお問い合わせください。十日町税務署

かわにし 俳壇

太田白南風選

寒気やや弛みし水柱落つる音
雪御す巖根と巖根とで話つつ
雪冠る南天の美の赤く透け

高らかな笑い声あり事はじめ
身につきて主婦の座にあり初かまど

黒島 志げ

北原 留彦

校門も見えず積みたる雪の嵩

清水 喜代

かまからの明りほのかにつつむ雪

鳥追いの声の遠くに吹雪くかな

清水ヨシ子

晴着着し心うつくしく座り

金子 湖月

帰省子を横座に櫓をくべ足せる